

平和・教育覚書（抄）

1953.10 池田・ロバートソン会談：自由党政調会長で政府特使と米国務次官補。「日本政府は、教育及び広報によって日本に愛国心と自衛のための自発的精神が成長するような空気を助長することに第一の責任を持つものである」の密約。ここから大きく右にカーブを切った。

昭和30年代（1955年～）教育反動の嵐：29教育二法強行採決、30社会科指導要領改正、「憂うべき教科書」アカ攻撃＝偏向教科書、31任命制教委法の強行採決、教科書調査官F項パーシ＝Fの意見で不合格に、32勤評強行、33指導要領全面改悪、特設道徳教育講習会、34管理職手当、35新安保条約強行採決、36全国一斉学力テスト…

1955. 8. 7～8 長崎県平和教育研究大会：被爆10周年、西日本各県から参加、山里小学校を主会場に分科会。「句集長崎」も刊行、松尾あつゆきの原爆句も。

1970.5. 16 長崎市被爆教師の会結成：長崎の組織的平和教育始まる。初期の平和教育を牽引

5. 19～22 児童生徒の原爆意識調査：2つの項目の結果にショック→空白の25年から「被爆教師」に

7. 1 原爆登校日の申し入れに市教委、校長会は拒否：城山、山里の慰霊式くらいでいい

8. 9 長崎県被爆教師の会結成

9. 文集「父と母の昭和20年前後」

11.26 第20次教育研究長崎研集会（県教研）に平和教育分科会

1971.6. 『わたしたちの長崎県』の原爆記述削除（68 佐藤栄作「教科書にきのこ雲の写真を出すことはいかがかと思います」）

7. 『原爆をどう教えるか 長崎の平和教育Ⅰ』刊行

（父と母の～、トップニュースの記録、県庁のある長崎市）

1972.6. 30 『こどものためのナガサキの原爆読本』全4冊刊行

7. 20 『継承の証を絶たず 長崎の平和教育Ⅱ』刊行

1973.5. 17 仏の核実験に抗議、初投稿

7. 15 「出口家の被爆」長崎証言第5集に

8. 教育職員免許法施行規則改正で憲法必修削除

10.13 第1回全国平和教育シンポジウム（広島）

1974.6. 1 「戸石百年 学校のうつりかわり、くらしのうつりかわり」

6. 26 原爆読本再刊趣意書1500枚校長が持ち去り

8. 17 第1回核実験抗議座り込み、中心碑前に5人で

1975.7. 20 原爆登校日に原爆読本持参ならぬ：持たない子への教育的配慮

10.13 県教研・マスコミ文化と教育分科会「君が代と国語辞典」レポート

1976.6. 『はだしのゲン』回し読み：親たち自主的に連絡帳に感想文

7. 12 「平和教育推進委員会」設置を提案→11.1設置

7. 21～22 第13回市教組映画教室で「はだしのゲン」上映
1977. 平和教育旬間設定
5. 20 西町小で「原爆読本隠し」：松江市の閲覧制限と通底
6. 12 全国平和教育シンポジウムで「長崎における平和教育の抑圧に反対する声明」採択
6. 15 長崎市議会で読本問題取りあぐ
6. 文部省、新学習指導要領で「ゆとり」強調：詰め込み教育を日教組が批判したことから
7. 8 長崎市教委、西町小学校に平和教育（読本隠し）についての公開質問状
8. 10 原爆読本の一部（150冊中の15冊）を返却→後日残部を頒布
9. 12 長崎市教委、「教育問題研究委員会」を発足：スタート時点でゴールが見えた
- 1978.2. 11 県教組、第1回「2.11 平和教育研究集会」
5. 9 市教委、「平和に関する指導資料（試案）」を市内全教員に配布：官製平和教育始まる
基本3原則の第1に、「原爆を原点とする」ものではない。
5. 16 市教委、研究指定から平和教育を不採用：市教委、教育努力目標に初めて平和に関する
教育の推進。「指定対象に平和教育は考えていなかった」
6. 10～11 長崎市で「第6回全国平和教育シンポジウム」開催、1200名参加、「原爆報道は片隅
に追いやられ原子力の平和利用の一大キャンペーンが1年中行われる現実」「教師が平和
利用問題を避けている」、78.10 原子力船「むつ」佐世保入港
8. 5 小柵小校長、「原爆を許すまじ」歌唱禁止の指示
- 1979.2. 1 県教組「ながききの教育（平和教育の手引き）」作成
- 1980.3 県被爆教職員の会などが「被爆体験の継承と慰霊のための自鳴鐘設置について」（11時2分
のメロディー）を市議会に請願→6月議会で採択
5. 20 自由新報で平和文学教材を偏向攻撃：大きなかぶ、村いちばんのさくらの木、夕づる、一
つの花など
6. 9～13 パリでユネスコ主催「軍縮教育世界会議」（鎌田定夫、武居洋、山川）、2分科会
6. 平和カレンダー撤去 「常識的に考えて望ましくないものは私物であれ公物であれ除去す
る」「教育的でないのは校長が常識的に分かるはず」と黒岩市教育長
- 10 組写真「ヒロシマ・ナガサキ」刊行（日教組、広島・長崎県教組）
- 1981.5. 14 ポーランド自主管理労組連帯・ワレサ委員長来崎 アウシュビッツ・広島・長崎連帯し、3
都市平和教育会議を文書で提唱→12月、ポーランド情勢緊迫化、ワレサ氏軟禁
7. 1 長崎市と県製作アニメ「8月9日長崎」は「低学年には衝撃大」と県教委が議会で見解
教材のもつ残酷さ、悲惨さと発達段階の関係（研究者と実践者双方からのアプローチを）
*発達段階？
7. 10 教科書検定で原爆の図、はだしのゲン削除、差し替え：暗い
8. 9 日曜日の原爆登校減る 有明中では、生徒約200人が登校、校長・教頭が校門に鍵を掛けて
て生徒を中に入れず追い返す
- 1982.1. 22 全国統一献立「カレーの日」、長崎市、大村市など中止（全国一斉統一癡症候群）
- 1984.9. 27 被爆体験講話を鹿児島県の校長が中止。以後10年間、鹿児島からの講話依頼中断
- 10.24 市民の会、「核実験抗議10年の記録」
- 1985.2. 11 ナガサキ平和サークル『平和カレンダー』発行
(1985.4 上五島・魚目小に単身赴任)

- 1986.1. 9 上五島・青方で離島初の核実験抗議座り込み開始、山口仙二さん激励挨拶
 3. 平和メッセージとヒマワリの種付き風船飛ばし、青方→津和野町→山川町
- 1988.6. 6～17 国連軍縮特別総会SSDⅢ参加、ネバダ核実験場へ
- 1989.3 昭和から平成へ 修了証書の元号書き換え
 7. 30 「核実験に抗議する長崎県内市民団体交流会」事務局に
- 1990.6. 23～24 長崎市で「第18回全国平和教育シンポ」、中沢啓治講演「クロがいた夏」
- 1994.3 K校長、卒業式の祝辞で憲法を語る
 6. 「センセイ、ハタ アル？」→95.8 前学級の親子で韓国平和の旅
 (1997.3 定年退職 勇退?)
- 1998.9. 高校生平和大使誕生
- 1999.5. 9～20 ハーグ平和市民会議：1項と9項に感銘
 7. 1 小6社会科全教科書に天皇写真、不使用の2社に「不十分」の検定意見
 8. 9 国旗国歌法成立
- 2000.4. 6 県立大・石村善治学長、日の丸不掲揚
 5. 核実験に関するアンケート「核実験と自治体」：非核自治体半数核実験に抗議せず
 11.28 平和に関する教育基本3原則見直し：マイナーチェンジだ
2001. 高校生1万人署名活動始まる
- 2002.6. 3 長崎大学の東京電力寄付講座に反対申し入れ
- 2004.8. 長崎平和推進協会事務局、長崎での「全国平和教育シンポジウム」が政治的性格として後援を拒否
 11. 内閣官房「武力攻撃やテロなどから身を守るために」：核爆発の場合は、火球は見るな、上着を頭からかぶり口と鼻をハンカチで覆いなるべく遠くへ離れよ
- 2005.4 活水高校で必須科目「長崎平和学」始まる（テキスト『希望の平和学』）
- 2006.1. 長崎平和推進協会事務局、語り部に政治的発言自粛要請文書：憲法、原発、天皇、人権・環境など
- 2012.8. 7年かかった爆死証明書の常設展示
- 2013.6. 9 核実験抗議座り込み40年の「市民の会」に秋月平和賞
 8. 18 市民の会、国連の「核実験に反対する国際デー」に連携し初の学習会

重箱の隅をほじるようですが…

ア 季節報道としての始業式、終業式、終了式、入学式、卒業式・卒業証書授与式、周辺校にも

イ 防犯カメラ（軟）と監視カメラ（硬）

ウ 県内非核自治体、核実験に半数抗議せず 抗議しない自治体の言い分を

エ 核性能実験（軟）と核実験（硬）

オ 8月9日休刊日 2015年も変更できませんか

カッ 12.8社説0と8.15社説全紙 原因と結果、加害と被害、ご真影